

医薬品安全性情報(2010/03/04)－新型インフルエンザ関連情報

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

目 次

1. WHO (World Health Organization)

- Oseltamivir 耐性パンデミック A (H1N1) 2009 インフルエンザウイルス(2010年1月更新情報)
[2010/02/05] 2

1. WHO (World Health Organization)

Vol.8 (2010) No.05 (03/04) R07

【WHO】

• Oseltamivir耐性パンデミックA (H1N1) 2009 インフルエンザウイルス(2010年1月更新情報)

Update on oseltamivir-resistant pandemic A (H1N1) 2009 influenza virus: January 2010

Weekly Epidemiological Record Vol. 85, No.06, 2010

通知日:2010/02/05

<http://www.who.int/entity/wer/2010/wer8506.pdf>

<http://www.who.int/wer/2010/wer8506/en/index.html>

2009年6月に oseltamivir 耐性パンデミックインフルエンザ A (H1N1) 2009 ウイルスの出現が初めて報告されて以来、全世界で 200 例を超える報告がなされている。

以下に示した 225 例を除けば、検査されたいずれの臨床サンプルにもパンデミック (H1N1) 2009 ウイルスの H275Y 変異はみられず、ノイラミニダーゼ阻害薬の oseltamivir, zanamivir に対して感受性であると考えられる。このことは oseltamivir 耐性ウイルスの広域流行がないことを示しているが、最近報告された集団発生事例は、耐性ウイルスが局地的には伝播することを示唆している。

◇ Oseltamivir 耐性例について

2010年2月3日までに、oseltamivir 耐性の確定症例が全世界で計 225 例報告されている(表 1)。これらの oseltamivir 耐性分離株のすべてでノイラミニダーゼ遺伝子に同一の変異(H275Y)があった。この変異があると、oseltamivir には耐性となるが zanamivir には感受性を保持している。パンデミック(H1N1)2009ウイルスと、oseltamivir 耐性菌の割合がより高い他の季節性 A (H1N1) 2009 ウイルスとの遺伝子再集合のエビデンスもない。

表 1: Oseltamivir 耐性パンデミック A (H1N1) 2009 ウイルスの地域分布

分離株	米国	ヨーロッパ	地中海東岸	アフリカ	東南アジア	西太平洋
パンデミック (H1N1) 2009 ウイルス検査を行った分離株数 ^a	>8,000	>7,500	50	66	20	>7,500
Oseltamivir 耐性分離株の報告数	65	77	1	0	0	82

^a WHO Collaborating Centres for Reference and Research on Influenza, National Influenza Centres 提供の情報を集計したデータ

◇ 結論

今回のパンデミックは大規模であり、oseltamivir が広く使用され、抗ウイルス薬の感受性について広範なモニタリングが行われているが、oseltamivir 耐性パンデミック A (H1N1) 2009 インフルエンザウイルスの報告例数は依然として少ない。これらの耐性ウイルスの地域社会での流行のエビデンスはないが、いくつかの疫学的状況下では、数は少ないがヒトからヒトへの伝播があったとの明確なエビデンスがある。臨床医、研究所、関係機関はパンデミック (H1N1) 2009 ウイルスの抗ウイルス薬耐性の積極的な調査を継続する必要がある。Oseltamivir 耐性パンデミック A (H1N1) 2009 インフルエンザウイルスの症例はすべて調査し、速やかに WHO など関係機関に知らせるべきである。

◎Oseltamivir [オセルタミビル, 抗 A 型/B 型抗インフルエンザウイルス薬, ノイラミニダーゼ阻害薬]

国内: 発売済 海外: 発売済

◎Zanamivir [ザナミビル, 抗 A 型/B 型インフルエンザウイルス薬, ノイラミニダーゼ阻害薬]

国内: 発売済 海外: 発売

以上

連絡先

安全情報部第一室: 天沼 喜美子